

各 位

一般財団法人全日本ろうあ連盟

理事長 石野富志三郎

デフリンピック派遣委員会

委員長 石野富志三郎



第 23 回夏季デフリンピック競技大会（2017 サムスンデフリンピック）派遣のご協力をお願い

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、聴覚・言語に障害を有するろう者の社会参加や福祉にご理解とご支援をいただき厚くお礼を申し上げます。標記のデフリンピックは、ろう者のオリンピックと呼ばれており、昨年ブラジル・リオデジャネイロで開かれました肢体障害者や視覚障害者を対象としたパラリンピックとは別個に 4 年ごとに開催されており、今年 7 月にトルコ・サムスンで 23 回目の開催を迎えます。日本からは 177 名（選手 108 名、スタッフ 69 名）の選手団を派遣し、過去最高のメダル獲得数を目指しております。

このデフリンピックは、「パラリンピック」より古い歴史をもち、それに出場することは聞こえない選手の最大の誇りであり、一般ろう者が選手の活躍を期待し、大きな感動を受ける国際競技会です。前回の第 22 回夏季デフリンピックは、2013 年 7 月、ブルガリア・ソフィアで開催され、世界から 90 カ国、2,871 人が集いました。ブルガリア大会では、日本は 219 名からなる日本代表団を派遣し、金メダル 2 個・銀メダル 10 個、銅メダル 9 個を獲得しております。

この大会への派遣にかかる経費は、オリンピックやパラリンピックと同じく、政府から支援をいただいております。しかし、助成対象となるのは経費の一部のみであるうえ、オリンピックやパラリンピックとは異なり、デフリンピックに対する知名度や理解が一般社会に普及していないことから、周囲からのサポートを得られにくく、結果として選手がかなりの負担を強いられているのが現状です。

折しも 2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から障害の有無にかかわらず多くの人々が来日します。私たちは、デフリンピックへの日本代表団派遣は、ろう者スポーツの発展のみならず、国際交流や国内での社会参加と自己実現に欠かせない重要な事業と位置づけております。日本のろう者がスポーツを通して国際交流を深め、多種多様な人々とコミュニケーションを交わし、自身の記録に挑み極限に向かって取り組むことで、それがひいては国民のスポーツ文化を発展させるものであると確信しています。

今回のデフリンピック派遣に際し、国民の皆様のあたたかいご支援をいただきながら派遣を成功させたたく、何卒上記趣旨と事情をご理解いただき、ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、ご寄付にあたって、税減免の希望等がありましたらご希望に沿えるよう手続きを行いますので、お知らせください。

【連絡先】

一般財団法人全日本ろうあ連盟

デフリンピック派遣委員会事務局長 山根昭治

〒162 - 0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル 8 F

Tel 03-3268-8847 Fax 03-3267-3445

担当：事務局・岡安・加茂下 (jfd-sc@jfd.or.jp)